

泌尿器科学

責任者名：米原 啓之

学期：前期

対象学年：5 年

授業形式等：講義

◆担当教員

米原 啓之(口腔外科学Ⅱ 教授)

山口 健哉(隣接医学 兼任講師)

◆一般目標 (GIO)

尿路, 男子生殖器の解剖, 生理について基礎的事項を理解する。さらに泌尿器科症候論, 各種検査法, 診断学および代表的な疾患を理解する。

◆到達目標 (SBOs)

歯科診療を行うために必要な泌尿器科的な知識を身につけ歯科診療を行うことができる。

◆評価方法

隣接医学Ⅲ (7 教科)

平常試験は「小児科学・耳鼻咽喉科学・眼科学・精神・神経科学」の範囲, 定期試験は「皮膚科学・泌尿器科学・産婦人科学」の範囲で判定を行い, 両方の試験を総合して各 50%により評価する。

◆オフィス・アワー

担当教員	対応時間・場所など	メールアドレス・連絡先	備考
米原 啓之	月曜日～金曜日 17:00～18:00 口腔外科学第Ⅱ講座教授室	yonehara.yoshiyuki@nihon-u.ac.jp	

◆授業の方法

授業は教科書, PC, 黒板を用いて行う。

◆教材 (教科書、参考図書、プリント等)

種別	図書名	著者名	出版社名	発行年
教科書	隣接医学Ⅲ (PDF ファイル配付)	日本大学歯学部編	日本大学歯学部	令和 4 年
参考書	基本泌尿器科学	岡田清己ほか編	医学図書出版	平成 9 年

◆DP・CP

DP 4

コンピテンス：問題発見・解決力

コンピテンシー：自ら問題を発見し、その解決に必要な基本的歯科医学・医療の知識とスキルを修得できる。

DP5

コンピテンス：挑戦力

コンピテンシー：新たな課題の解決策を見出すために、基礎・臨床・社会医学等の知識を基に積極的に挑戦し続けることができる。

DP6

コンピテンス：コミュニケーション力

コンピテンシー：医療をはじめとする様々な場面において、他者との円滑な意思の疎通を行い、互いに価値観を共有し、適切なコミュニケーションを実践して自らの考えを発信することができる。

DP7

コンピテンス：リーダーシップ・協働力

コンピテンシー：患者を中心としたチーム医療において、責任ある医療を実践するためのリーダーシップと協働力を養うことができる。

CP3

幅広い教養と歯科医療に必要な体系的な知識を基に、論理的・批判的思考力と総合的な判断能力を育成する。

CP4

歯科医学の基礎知識を体系的に修得し、臨床的な視点で問題を解決する力を養成する。

CP7

歯科医師の責務を自覚して、責任あるリーダーシップを発揮し、患者を中心としたチーム医療における適切なコミュニケーション能力を養成する。

◆準備学習(予習・復習)

必ず事前に教科書を読んで、授業内容の目的を理解しておくこと。

◆準備学習時間

各々授業時間相当を充てて予習と復習を行うこと。

◆全学年を通しての関連教科

隣接医学 I, II

口腔外科手術時の患者管理

口腔診断学・有病者歯科学

◆予定表

回	クラス	月日	時間	学習項目	学修到達目標	担当	コアカリキュラム
1		5.17	8	【対面】 1. 尿路, 男子生殖器の局所解剖と生理 (参)pp.1-18	・ 尿路, 生殖器の局所解剖およびそれらの機能について説明できる。	山口 健哉	E-6 医師と連携するために必要な医学的知識
2		5.24	8	【対面】 2. 泌尿器科症候	・ 泌尿器科的診察法および各種症状について説明できる。	山口 健哉	E-6 医師と連携するために

				論 (参)pp.39-46 3. 泌尿器科的検査 (参)pp.53-88	・代表的な泌尿器科的検査について説明できる。		必要な医学的知識
3		5.31	8	【対面】 4. 尿路性器損傷 (参)pp.137-144 5. 尿路生殖器感染症 (参)pp.89-106	・代表的な尿路性器外傷について説明できる。 ・尿路, 生殖器の感染症について説明できる。	山口 健哉	E-6 医師と連携するために必要な医学的知識
4		6.7	8	【対面】 6. 性分化異常 (参)pp.233-242 7. 神経因性膀胱 (参)pp.145-153 8. 尿路結石症 (参)pp.107-114	・代表的な性分化異常について説明できる。 ・神経因性膀胱について概略を説明できる。 ・尿路結石の治療の概略を説明できる。	山口 健哉	E-6 医師と連携するために必要な医学的知識
5		6.14	8	【対面】 9. 尿路生殖器腫瘍 (参)pp.115-135	・泌尿生殖器系各腫瘍の代表的なものを説明できる。	山口 健哉	E-6 医師と連携するために必要な医学的知識

